

令和5年度の取組

レガシー④ 誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち

1 今年度の主な取組

1 インクルーシブな環境の整備

障害者スポーツ普及促進モデル事業

目的：地域の課題に対応した障害者スポーツの実施、環境の整備を推進し、障害のあるなしに関わらず誰もが身近な場所でスポーツを実施できる環境等の実現を目指す。

成果：オープンエアメーカー（障害理解サポーター）養成講座を、支援学校の教員志望者などの将来的に福祉分野での活躍が期待される学生を対象に、連続講座として5回開催し、8人が受講した。
講座では座学、ワークショップを行った後、市内にある県立支援学校のイベントにおけるパラスポーツ体験ブースの運営に携わるなど、実際にパラスポーツを通じ障害当事者と関わることにより、今後の障害者スポーツ推進を担う人材を育成することができた。



オープンエアメーカー養成講座

2 インクルーシブなスポーツ大会の実施

①川崎市スポーツフェスタ（※R4アドバイザー活用事業）

日時：令和5年10月9日（月・祝）

目的：パラスポーツの体験ブースやステージを設けてパラスポーツを普及するとともに、障害のあるなしや年齢に関わらず、誰もがスポーツを楽しむことができるイベントとして開催する。

成果：令和4年度のアドバイザーからの提案を踏まえ、新たに次の取組を実施
・パラスポーツの体験ブースを7種目に増加（令和4年度は4種目）
・日常でもスポーツ活動ができる場の紹介として、各協力団体のチラシを配布
・終日楽しめるよう新たにキッチンカーを設置（13店予定、雨天のため4店のみ出店）
※ブラインドサッカーの実演などパラスポーツステージの新設を計画したが、雨天のため中止となった。



車いす体験

②かわさき多摩川マラソン

日時：令和5年11月19日（日）

目的：市制100周年のプレ大会としてリニューアルし、誰もが楽しめるインクルーシブな大会として開催する。

成果：大会参加者：5,688人（令和4年度は4,012人）
・車いす部門の創設：参加者19人（定員20人）
・ファミリーランの未就学児部門の創設：参加者106組212人
・特別支援学校生徒招待枠の設定：参加者45人
・障害者対応を熟知したスタッフ・ボランティアの配置：16人
・誰でも使えるトイレや車いすラン参加者専用の控室等の設置



車いすランのゴールシーン

参加者の声：●久しぶりに走りましたが、子どもと一緒に楽しく走れました。（未就学児部門参加者）
●緊張や不安はありましたが、いざ参加してみるとスタッフの方々のおかげで、楽しく競技ができました。参加して良かったです。（車いす参加者）
●スタッフの皆様がとても親切で安心して参加ができました。次回、友人も誘って参加したいと思います。（車いす参加者）

3 令和4年度のアドバイザーからの提案等の横展開

令和4年度の「川崎市スポーツフェスタ」におけるアドバイザーからの提案等を、改めて部会構成員と共有するとともに、所管事業の中で、導入可能な提案またはその要素等を組み込んで実施した。

成果：令和5年度は、新たに8事業において提案を踏まえた取組を実施

事例：●屋内会場の自由参加体験ブースを1階に配置し、屋外会場の体験ブースとの一体感を創出して、周遊しやすいレイアウトとした。
●試合形式の体験会において、初めて実施する方にはハンデを付けるなど、楽しく参加してもらうことに重点を置いて実施した。
●市民祭りなど集客力のあるイベントに、パラスポーツ体験ブースを出展することにより、多くの方に参加していただいた。

4 アドバイザーを活用した取組

目的：区で開催するイベントにおいて、昨年度の大規模イベントとはスケールや予算規模、対象、運営体制等が異なることを前提とした視点で意見や提案をいただく。

アドバイザー：萩原 拓也さん（一社）世界ゆるスポーツ協会理事
戸沼 智貴さん（一社）魂刀流志伎会代表理事

視察対象：中原スポーツまつり 令和6年2月23日（金・祝）10:00～15:00
とどろきアリーナ（メインアリーナ・体育室）、とどろきアリーナ前 赤レンガ広場
催し物広場（雨天のため屋外会場の種目は中止または屋内に移動して実施）
【概要】ニュースポーツや誰でも楽しむことができる種目の体験ブース、かわさきスポーツパートナーと連携した体験ブース、ステージ企画 など

意見交換会：令和6年3月21日（木）オンラインにて開催
⇒意見交換会における提案等を取りまとめ、部会構成員と共有
⇒各所属において意見・提案を踏まえた取組を検討・実施

2 令和6年度の取組の方向性

現在の状況

◎「令和5年度かわさきパラムーブメント意識調査」の結果では、障害者手帳を持っている方で、スポーツへの参加（する、みる、ささえる）に関してバリア（障壁）を感じている方の割合は、前年調査に比べ5.0ポイント減少している。

※バリアを感じている方の割合 今回調査：59.3%（前年調査：64.3%）

◎令和4年度のアドバイザーからの提案等を部会構成員と共有し、各所属の事業において提案等を踏まえた取組を検討・実施することにより、改善が図られている。

令和6年度の取組の方向性

※意識調査では一定の改善が見られるものの、更なる取組の推進を図るため、令和5年度のアドバイザーからの新たな提案等を部会構成員と共有するとともに、レガシー形成に資する取組の導入に向けて引き続き検討していく。

※改善を行った事業における新たな課題や改善点を把握し共有する。

3 市民等の意見聴取

※アドバイザーからの提案等を踏まえて改善に取り組んだ事業において、その実施状況を改めて確認してもらい、その効果や新たな課題、改善点等について御意見をいただくことを想定しているが、詳細については令和6年度のスポーツ・文化部会で決定する。